

自己評価結果公表シート

2024年度

明星中学校・高等学校

1. 学校の教育目標

「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」という学苑の建学の精神のもと、変化し続ける社会に敏感に対応し、自らの将来を描き共創できる力を一人ひとりの生徒に身につけさせる。

新たな時代に向けて明星中学校・高等学校は、以下を教育ビジョン・教育目標とする。

教育ビジョン

- ・「世界のトレンドに適応し続けるイノベティブな学校」
- ・「人と自然を愛し、自他の価値を大切にする学校」
- ・「生徒と教師がともに成長し誇りを持てる学校」

教育目標

「自分の未来をデザインし共創していける人の育成」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) 中高一貫イノベーション

- ①一貫教育推進
- ②外部資源を活用し基礎学力、AI プログラム教育・理数教育の充実
- ③探究学習（SDG s ・地域共創を含む）の深化と進化【資料1】
- ④生成 AI を利用した学習活動の実践
- ⑤ハートグローバル（アウトリーチプログラム）実施
- ⑥留学生の受け入れ
- ⑦海外への修学旅行実施

(2) 高校教育イノベーション

【本科・SMGS・MGS 共通】

- ①探究活動の推進【資料1】
- ②総合探究活動（学年取り組み）
- ③UCL-Japan Youth Challenge 2024 参加【資料2】
- ④ターム留学
- ⑤ジョージア交換留

(3) 多摩共創プロジェクトの推進

- ①府中市との連携【資料1】
- ②国・府学プロジェクト

(4) 人と組織の成長・業務改善

- ①生成 AI ・ICT 推進
 - 1 出席簿のデジタル化による業務の正確性向上への取り組み
 - 2 自動採点システムの導入による業務効率化への取り組みと実践
- ②初任者・若手研修【資料3】
- ③部活動改革【資料4】

(5) 学校運営上の推進事項

- ①いじめ対策

②ハラスメント関連 ③防災 ④防犯 ⑤HP 管理運営 ⑥諸規定の整備 1 校則 2 教務規定・評価規定 ⑦保護者対応 ⑧安全管理
(6) 課題解決プロジェクトの設置 ①働き方改革【資料5】 ②次世代ラーニング
(7) 入学広報戦略・戦術の深化、入学者の確保 ①ホームページによる戦略的な広報活動・生徒募集の実践 ②ホームページの分析によるマーケティング課題の可視化

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目		結果	理由
(1) 中高一貫イノベーション	①	B	学力推移調査、英検取得率を過年度と比較した際に、上昇傾向にはあるものの、まだ改善の余地が残る部分があるため。
	②	A	明星大学理工学部と連携した理系教育の推進、ミライクリエ等の外部リソースの活用によるAI、プログラミング教育の実施、放課学習支援による幅広い成績層の上昇が見られたため。
	③	A	学年シラバスに基づいた総合学習の取り組みに加え、府中市との連携事業や中大連携事業を推し進めることができたため。【資料1】
	④	B	一部、授業においては生成AIを用いた授業の実践もおこなえたが、シラバスに落とし込んだ活用方法については今後の課題である。
	⑤	B	ホームステイ先の確保が完全ではなかった
	⑥	A	希望の生徒は積極的に受け入れ、恙なく留学を終えた。
	⑦	A	所期の目的を達成した
(2) 高校教育イノベーション	①	A	年間シラバスに加え、連携協定を本年度結んだ学校とも探究活動、進路学習を進めることができ、生徒にとって視野を広げるきっかけを得られたため。【資料1】
	②	A	校外の諸機関との連携を進めて、探究学習の具体的成果を挙げることができた。
	③	A	参加生徒の成長は著しく、参加した効果は顕著であった。【資料2】
	④	A	現在も実施中。
	⑤	B	新規事業のため、組織的対応の組み立てに難があった。
(3) 多摩共創プロジェクトの推進	①	A	年間シラバスの作成と府中市と連携に則り、計画的な実施に基づく活動の中で社会や大人との

			繋がりを深められたため。【資料1】
	②	A	年間シラバスの作成に則り、計画的に学びを深め、地域と学校が協力し合うことで、生徒の学びがより豊かで実践的なものになったため。
(4) 人と組織の成長・業務改善	①-1	B	Siems との連携にシステム上の問題があり、それに対応するために今年度の実施ができなかった点は課題であった。すべての問題は解消されたので次年度4月から運用を予定。
	①-2	A	3年前から運用に関して課題の洗い出しをしてきたが、11月より導入することができ業務の効率を図ることができたため。
	②	B	系統的な研修プログラムを実施できたが、さらに内容の精査が必要であるため。【資料3】
	③	B	昨年度に引き続き部活動WGを開催し、部活動改革に取り組んだ。その結果いくつかの部活改革につながる決定に至り、部活動改革につながった。【資料4】
(5) 学校運営上の推進事項	①	B	保護者のアンケートにおいて、評価が低い（取り組みが見えない）との意見を頂戴した。【資料6】
	②	A	初めてハラスメントアンケートを実施した。
	③	B	事務職員、幼稚園、小学校と連携して実施することができた。
	④	B	実施時期が年度末に近かった。
	⑤	A	1000ページ以上の内容を精査、削除等を行い、情報の伝達や学校の魅力を効果的に伝えることで、訪問者の滞在時間を延ばすことができたため。
	⑥-1	B	一部見直しは終了したが、検討中のものも残る。
	⑥-2	A	一部継続検証は必要ながら、おおむね達成した。
	⑦	A	保護者との密接な関係構築に努力した
	⑧	A	バスに限らず、公共交通機関におけるマナー向上の為に、日頃から生徒に他者に対する配慮について指導していくことも不可欠
(6) 課題解決プロジェクトの設置	①	A	継続的かつ多方面からの意見集約が結実した。【資料5】
	②	B	一部顕著な効果があった。
(7) 入学広報戦略・戦術の深化、入学者の確保	①	A	アクセス数は昨年度より減ったにも関わらず、学校説明会、入試の出願者数が大幅に増加したため、ホームページの中身の改善が見られたと考えられるため。
	②	A	定期的なGA4による分析を通して、訪問者の興味関心のある内容についてアップデートをおこない、学校説明会、入試の出願者数が増加したため。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
B	評価項目が達成できており十分な成果がでているものと、着手はしているが成果があがっていないもの、未着手のものが混在しており、マネジメント及び、細かな指示命令がさらに必要と思われる。経営的定量及び外部との連携事業は満足できるものである。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
コンプライアンス問題意識の深化	個別具体的な項目を設定し、外部人材に委託する形で研修会を実施する
MGS、本科、一貫それぞれのセグメント別指導充実	放課後学習支援（中学）の継続実施 探究学習の深化（本科） 英検取得率の向上（セグメント別指導の充実）
部活動の精選	適正な部数への縮小
進学実績の向上	「中学」新コース（MI）立ち上げ（2026年度～）
大学との連携深化	連携校との共同行事の実施及びその精選
明星大学進学者増【資料8】	大学との連携をさらに強化